

アフリカ連合（AU）日本政府代表部（AU 代表部）の大使の堀内俊彦です。メルマガ（第15号）をお送りします。

02023年になりました。そこで02023年のアフリカ関連の主な出来事・予定を記したいと思います（02023年というのは誤植ではありません。長期的思考を忘れぬようにこの表記にしています）。ただし、同時に、ただ単に予定をなぞるだけでなく、望ましい未来を描いてそこからバックキャストして今やるべきことに取り組むフューチャー・デザインも重要だと考えています。

●1月1日 日本が国連安全保障理事会の非常任理事国に

・日本が6年振りに安保理に入りました（前は2016年-17年の期間）。しかも、入っていきなり1月は議長を務めています。日本は、改めて「法の支配」「平和構築」の重要性を訴えるべく、12日には、林外務大臣の議長のもと「法の支配」をテーマとする公開討論を主催しました。ここしばらくの多くの国際的な危機・課題を受けて、グローバル・ガバナンスの再構築、また国連改革を含む多国間主義（マルチラテラリズム）の強化が叫ばれている中、日本は「法の支配のための結集」を呼びかけています。「まともさの困難さ」（西谷修）に耐えられない国が続出する中、日本自身多くの課題を抱えるにしても、ここが踏ん張りどころです。

・安保理で扱われる案件の多くはアフリカのPKOや紛争です。個々の事案でも日本の

見識・判断が問われます。

●2月18日－19日 AU 総会

・毎年恒例の AU 総会。議長国がセネガルからインド洋の島国コモロに引き継がれる予定です（議長国は毎年輪番で交代で、今年は東アフリカからの番です）。コモロのような比較的規模の大きくない国が議長になるのは初めてです。国のサイズからその手腕を心配する声もありますが、国のサイズを前提としない機会均等の観点から歓迎する声もあります。

●5月19日－21日 G7 広島サミット

・世界がマルチプレックス化（多重化・多層化）すると言われる中での G7 サミット。日本が議長です。振り返れば、G7 サミットにアフリカ諸国の首脳をゲスト（アウトリーチ）として招いたのは2000年の九州・沖縄サミットが初めてでした。G7として初めて、アフリカの声を直接聞こうと取り組んだ日本。その先見性が今、再び問われます。

●10月 G20 サミット

・アフリカが望む、AU の G20 への参加。日本を始め複数の G20 の国が既に賛意を

表明しています。G20は、今年はインド、2024年はブラジル、2025年は南アが議長となり、しばらくは、アフリカの声がこれまで以上に議論に反映されやすくなることが予想されます。その声の「内容」「トーン」をどのようなものにするか。それがアフリカの大きな課題です（日本を含む国際社会の課題でもあります）。

●アフリカとアフリカ以外の国・地域とのパートナーシップ

・色々な国や地域機関がアフリカとの関係強化を図っています。今年、アラブ連盟とインドが、それぞれアフリカとの間で首脳級会合を開催予定です。古くからのアラブ世界との紐帯をいかにアップデートするのか、今年世界最大の人口になる見込みのインドとの関係をどう規定するのか注目です。

・ロシアも、延び延びになっている2回目のアフリカ・ロシア・サミットの開催を狙っており、この点も要注意です。

・なお、今年、第1回のTICAD（アフリカ開発会議）が1993年に東京で開催されてから30周年の節目の年です。日本がアフリカにとっての一步突き抜けたパートナーになるためにも、この節目を新たなモメンタムにしたいと思います。

多くの方の様々な声をお聴きしながら、アフリカについて考え、行動していきたいと思っております。ご意見頂戴できましたら幸いです。

2023年（令和5年）1月23日

アフリカ連合日本政府代表部 大使

堀内俊彦